

三商レポート

第三話 「賢く利用したつもりが・・・」

(株) 三商 内藤 雄

銀行やデパートへ行けば、クレジットカードを「持たされる」時代になりました。クレジットカード業界は、銀行が中心となって驚くような再編が進んでいます。カードビジネスの強化が収益向上のカギを握るとみているからです。その陰で、カードで失敗した働く女性や家庭の主婦が増え続けています。

発行する側は、あの手この手で仕掛けをつくり、必ず財布に入れて使ってもらえるメインカードの座を狙います。年会費無料はもう当たり前。顧客の精度の高い個人情報はお金を支払っても欲しい時代です。タダで手に入れば安いもの。家族構成・預金残高・購買履歴などがわかれば、次の販売戦略が効率よくたてられます。また、IC内蔵のマイレージ機能つきクレジット・キャッシュカード一体型が主流になります。使えば使うほどお得な付加価値をつけ、優良顧客の囲い込みを狙います。キャッシング利用による利息収入も狙えます。なお分離型も選べますが、会費は有料となるようです。

利用する側も、当然どれが便利でお得か調べます。ある調査によると、ビジネスマンは銀行系を選ぶ傾向で、使える店の多さを重視しています。女性は流通系を選ぶ傾向で、年会費や買物割引やポイント制など実利を重視し、用途に合わせ複数所持し使い分ける人が増えているそうです（週刊ダイヤモンド 2004.9.11号）。特に女性は賢く上手に利用しています。例えば、海外旅行の傷害保険つき・普通預金の金利上乘せ・飲食店での割引・ATM時間外手数料無料・ギフト券贈呈・商品と交換など。年末に賢くためたポイントをまとめて使い「自分へのご褒美にする」ことが流行のようです。

しかし、有効期間内に得をしようと無理な買い物をしたり、ポイントが倍になる日にムダな買い物をしたりしてしまふことがあります。デパートや高級ブランド店でほかの人とは違う色のカードを店員さんに見せると急に態度が変わります。VIP待遇でつい高価な買い物をしてしまいます。でも快感です。カードの利用にハマリ、やがてマヒし、ついに支払能力を超えてしまいます。カードの支払いのため消費者金融へ走ります。今度は消費者金融への返済のために次々と借金をして多重債務者となります。やがて自己破産や離婚のケースも。

賢く利用したつもりが、いつしか落とし穴にはまります。カードの自己管理がますます大切になってきます。カードは賢く利用すれば便利なものです。しかし、使い方を誤ると人生すら狂わせてしまいます。失敗の原因は様々です。

付き合い・見栄・欲求不満など。相談にみえる主婦の多くは、しっかりしたかたです。それが逆に災いします。ご主人に言えない。弱音を吐けない。自分一人で何とか解決しようと悩みながら頑張ってしまう。つらくても打ち明けることがスタートです。打ち明けられたご主人は、驚きます。でも、「なぜだ!」「なんでだ!」「どうしてだ!」と問い詰めたり、責めたりしないでください。まず、聞いてあげてください。「カネのことより、私に内緒にしていたことが許せない」というご主人もいます。でも、夫婦の会話がなかったことに気づいてください。実はお金のことは表面的な問題で、「言えなかった」理由のほうに本当の問題があるのです。「夫婦で何でも話せる」これは何よりの財産です。クレジットカードの自己管理も大切ですが、夫婦の会話の管理はもっと大切だと思います。

(2004年9月5日)